

障害者アート展

「今ここに咲く つるおかひょうげんの花展」

～鶴岡の障害のある人の表現活動を紹介する展示会を開催～

<目次>	P1	障害者アート展を開催
	P3	部会活動報告
	P5	インフォメーション
	P6	リレートーク（さくらが丘）

今年度初めて、障害のある方が日頃行っている芸術創作活動やその作品の発表の場の提供と障害者芸術への市民の理解促進を目的に鶴岡アートフォーラムにおいて「障害者アート展」が開催されました。

「誰もが個性の花を咲かせられるまちを目指して」というテーマを掲げ、障害のある方も、ない方もたくさんの方が描いた個性的な「花」の絵の展示と、障害者が織りなす書・絵画・ちぎり絵等多様なアート64点（約100名が参加）が展示されました。

10月3日（土）～14日（月）まで開催され、延べ1,176名の方からお越しいただきました。

また、同時にやまがた障がい者芸術活動推進センターぎやらりーら・ら・らの企画協力により「やまがたでつながるボーダレスアート2019／やまがた障がい者芸術作品公募展 入選作品巡回展」「やまがたのきざしとまなざし展」も開催されました。

今回アートフォーラムにご来場くださった方は障害者ご本人・ご家族が33%、一番多かったのは一般市民の方方で37%となりました。鶴岡市芸術祭に合わせた開催となったこともあり、他のイベントを見に来た方からの来場もあり、「障害者アート展」を通して、障害理解を深めていただくきっかけとなりました。

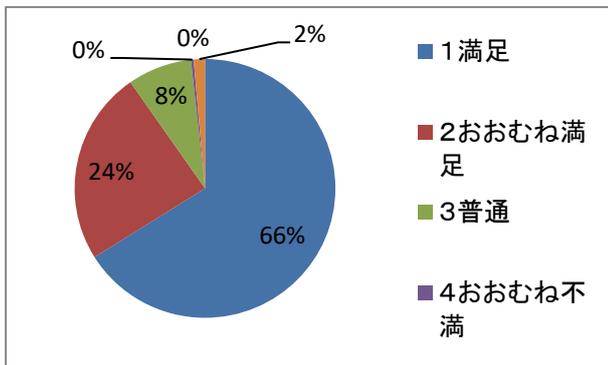


<市内の保育園、小学校からもたくさんの花の絵が届きました>

<アンケート結果>

(問) 今回のアート展は満足いく内容でしたか。

	人数	%
満足	191	62%
おおむね満足	70	23%
普通	23	8%
おおむね不満	1	0%
不満	0	0%
回答なし	4	7%
合計	306	100%



<来場された方から「花のタワー」制作にご協力いただきました>

【参加者の声】 (一部抜粋)

- ・皆さんが日常一生懸命に取り組んでいる様子が伺え、自分も頑張ろうと勇気をいただきました。ありがとうございました。

- ・あたたかなまなざしにあふれるアート展でした。これからの展開も楽しみです。
- ・わが子のがんばりの成果を見たり、他の事業所の取り組みを見ることができ、有意義でした。
- ・鶴岡でこのような展示会が出来てありがたく、うれしいです。
- ・一人一人の作っている姿や気持ちが見えてくるようでした。その人の「好き」を大事にできれば世界は広がるのだなと思いました。
- ・それぞれ、その方しか描けないかけがえのない表現に感動しました。このような企画は素晴らしいかったです。
- ・その人その人の個性が出ていて力強く生き生きと描かれていました。
- ・作品1つ1つに込められた思いを認め、励まし、共感する雰囲気があたたかかったです。

アンケート結果からも満足された方が85%と好評であり、障害者ご本人、ご家族からも「とても良かった」との感想が聞かれました。

一般の来場者の方からは「これを機に障害者理解を深めたい」、「健常者であろうと、障害者であろうとそれぞれの能力があることを実感した」などの感想が寄せられました。



<魅力的なたくさんの作品が会場に展示されました>

部会活動報告

令和元年度の活動経過・活動予定等

鶴岡市障害者地域自立支援協議会では、障害福祉分野の課題について、専門的に対策を協議するため、4つの専門部会を設置しています。

ここでは、各部会の活動の進捗状況や今後の活動予定等についてお知らせします。

相談支援部会

毎月第3木曜日に開催し、事例検討や制度勉強を行い相談支援スキルの向上を図りました。

本人や家族が望む生活・より良い支援体制構築に向けて、介護保険分野や精神保健分野それぞれの専門職との合同研修や情報交換会を通じ、制度を越えた円滑な連携を目指しました。また、地域生活支援拠点整備に関しては来年度末までの設置に向け、地域資源の現状把握と課題抽出についても議論を重ね、併せてネットワーク構築を図りました。

開催日：令和元年12月19日（木）

精神障害者等が住み慣れた地域を拠点とし、本人が充実した生活を送ることができるよう情報交換を開催。医療と福祉、地域と病院等関係機関が相互の役割確認や制度理解を図ることができました。



情報交換会① 短期入所事業所との情報交換

開催日：令和元年8月22日（木）

令和3年3月末までの地域生活支援拠点整備に向け、緊急時の受入体制・体験の場と機会に関する検討を行い、相談支援事業所と短期入所事業所間の役割確認ができました。



研修会① ケアマネジャー大会での連携（介護保険分野との協働）

開催日：令和元年12月6日（金）

介護保険と障害福祉、相互の制度間の切れ目のない相談支援体制を構築するため、事例報告・グループワークを通して参加者同士の関係づくり、利用者支援に活かすことを確認しました。



情報交換会② 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築にむけた情報交換（精神保健分野との連携）

こども部会

11月1日(金)に開催された「つるおか医療的ケア児支援に関する研修会」では、合同会社ヴォーチェ代表の佐藤奈々子氏を講師にお招きし、関係機関の職員等、55名の参加にて行われました。医師、医療関係者の参加もあり、「連携につながった」、「これからの地域での取り組みの参考になった」、「医療的ケア児支援の現状を知ることができ、積極的に支援していきたいと思った」などの感想がありました。

子ども版障害福祉のしおりと放課後等デイサービス・児童発達支援ガイドブックに関しては更新作業が終わり、製本中です。市役所ホームページにはすでに掲載してありますので、ぜひご活用ください。

発達障害部会

発達障害部会では、12月5日(木)に「発達障害児者の相談窓口等の情報交換会」(参加者21名)を開催し、関係機関より成人期における発達障害者の“切れ目のない支援”の取り組み内容や感じている課題について報告がありました。その後の情報交換会では、支援を行う上での好事例や悩んだケース、医療機関・支援者向けの研修会の情報等を共有し、医療や福祉、教育等における引継ぎ・情報共有の重要性を再確認する機会となりました。



しごと部会

しごと部会では、障害のある方の就労支援に関わる関係機関や事業所と連携し、障害者就労の現状、課題を共有し、就労機会の拡大や就労環境の整備を図っています。

11月11日(月)には就労系事業所職員情報交換会を開催し、14事業所19名の参加がありました。やまがた障がい者芸術活動推進センターぎやらりーら・ら・らコーディネーター武田和恵氏を講師に迎え、障害者アートと関連したデザイン商品や被災地の仕事開拓の事例を学び、その後の情報交換会では、仕事や商品開発、販売拡大等の悩み、他分野との連携・協働の重要性を知る機会になりました。また、企業からの作業受注のコーディネートについて、今年度は企業1社からのご相談があり、就労系事業所の受注につながることができました。

今年度で4年目となる市内就労系事業所合同バザー「きてみて市」は、国際村や観光物産館、市役所等を会場に計7日間開催し全体売上額は444,930円でした。次年度は会場・日数の拡大を予定しています。

新たな取り組みである「しごとガイドブック(仮称)」について、今年度は就労系事業所の情報を中心に作成しました。当事者やご家族が自分たちに合ったサービスや相談先を知るための情報として活用していきます。



<市役所で開催したきてみて市の様子>

INFORMATION

鶴岡市障害者相談支援センターのサロンについて

開所時間（コロナ拡大防止のため閉所の場合有）

月～金曜日 9:00～16:30

第1・3土曜日 9:00～13:00

開設の目的

障害の有無や程度に関わらず、交流や自立の促進のために訓練の場や機会の提供を行います。

サロンでは気持ちよくご利用いただくためのルールのもと、おしゃべりや読書、音楽鑑賞など思い思いのことで過ごしていただき、仕事に行く前後に気持ちを整える場所として活用されている方もいます。

また、月1回講師の佐藤健志先生を招いたヨガセラピーや軽トレーニングルームを使用した軽運動を行っています。年数回イベントを企画しており、鶴岡公園での花見等の外出イベント、簡単おやつクッキング等の創作活動プログラムを行い、多くの方からご参加いただいています。土曜日は月2回開所し、サロン内でカラオケやDVD鑑賞なども行っています。

まだサロンをご利用されたことのない方も、ご自由にご来館いただけますのでお気軽に見学にお越しください。

令和元年度 家族交流会・ピアカウンセリング交流会

障害者相談支援センターでは、鶴岡市からの委託を受けて「家族交流会」「ピアカウンセリング交流会」を毎年開催しています。日程や会場は鶴岡市広報、ホームページに掲載されますので、ぜひご参加ください。

「家族交流会」では、障害のある方の家族同士が交流・情報交換を行い、家族自身が今後を見据え、将来について考えるきっかけ作りの場となっています。今回は10月1日（火）に、県福祉休養ホーム寿海荘を会場に、14名の参加で開催しました。障害者差別解消法について学び意見交換をした後に、食事をしながらの交流や温泉入浴、軽運動などを楽しみました。

「頑張っている方の話を聞いて力をもらった」「自分の思いも発言できた」「人との出会いを嬉しく思う」などの感想がありました。



「ピアカウンセリング交流会」では、障害のある方や障害のある方と交流したい市内在住の方を対象として、1月19日（日）に10名の参加で開催されました。今回は「みんなで楽しくおしゃべり会」と題して、はてなボックスから引いた用紙に書いてあるお題について、参加者のみなさんからお話をしてもらいました。とん汁を食べながらの交流、宝引きゲームでも大いに盛り上がりました。



<第12回>

“想い”をつなぐ！

日々の事業所展開で思うこと、部会・個別支援会議に参加して感じたこと、今後活かしていきたいことなどを寄せていただくコーナーです。

リレートーク

社会福祉法人「いなほの会」

就労継続支援B型事業所「さくらが丘」

理事長 加藤 景一 氏



☆～夢と希望満開のさくらが丘を求めて～

さくらが丘は羽黒桜ヶ丘に平成2年開設しました。豊かな自然環境のもと自由闊達にのびのびと利用者に活動させたいとの関係者の熱き想いでした。環境に恵まれた風光明媚な月山のふもとで牧歌的な施設運営を求めて昨年で30周年を迎えました。その間、措置・支援費時代、自立支援・総合支援法と大きく四つの法令改変、利用者の人権の理解に係わる法制化も進み、生活や就労意識の向上の追い風となりました。無認可作業所にも国庫補助の道が開かれ多くの利用者・保護者の権利充実につながりました。何より差別意識解消への第一歩でした。生き生きと通所し屈託なく伸び伸びと生活している利用者は私達の活力の源泉となりました。更に関係者や地域の皆様よりの温かい理解と協力も高まり事業もより着実なものになりました。

人権意識の理解は進んだものの差別意識等では残念ながら一部に課題は残ります。意識の旧態依然の人、殊更に喧伝し過激に自己主張、また追随する人も散見します。寛大さ寛容さの希薄化も気がかりです。自己主義や〇〇ファーストではなくワンチーム＝和笑絆福（わしょうはんぷく）の精神発揚が是非とも必要です。時が時だけに福祉活動にも影響のない事を願っています。個々の特性の違いを相互理解し支え合い助け合い協力し生きる事への価値観＝協生力が大切です。

さくらが丘は今まで以上に和笑絆福の想いを大切に、多くの関係者の声に耳を傾けながら、夢と希望のもとに創設時の想いを次に繋げたいと思います。

しかし、経済は不安状況下、景気冷え込みは福祉事業所の生産活動収益に大きく影響します。

当所は生産活動も堅調に推移していますが悪影響も懸念されています。昨年5月に木工班作業棟増築、30周年を節目として再チャレンジ！創意工夫と和笑絆福の総合力にて難局を乗り越えたいと思いません。幸い自然の恵みを基軸とした木工・加工・農芸・裁縫・工作・シルクプリントの各班とも元気に頑張っています。利用者の笑顔に満ちてやる気満々の姿を応援歌に、夢と希望満開のさくらが丘を求め続けていきたいと思えます。



就労継続支援B型事業所「さくらが丘」

住 所：鶴岡市羽黒町川代字桜ヶ丘 115-4

電 話：0235-62-2333

F A X：0235-62-2319

編集後記

4月から市の障害者差別解消推進にかかる条例が施行されますが、この紙面を通して、自立支援協議会の動きなどを皆さんに分かりやすく伝えることで、障害についてもっと身近に理解していただけたらと考えております。来年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。